


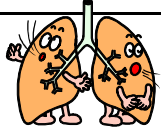

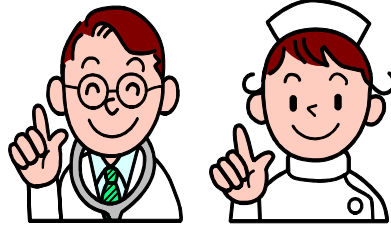

自然気胸で入院される方へ

氏名 _____ 様 使用許可医師 _____ 主治医 _____ 担当看護師 _____



自然気胸とは・・・肺の一部がパンクして、肺と胸壁の間に空気がたまる状態です。安静時に起きる場合も、運動時に起きる場合もあります。パンクしやすい場所が明らかな場合と、不明な場合があります。**症状**としては、**突然の咳、胸の痛み、息苦しさ**などがあります。

入院診療看護計画書

	入院日(/)	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
治療	[空気の量(レントゲン上)] ・片肺の30%以下 → ・片肺の30~60% → ・片肺の60%以上 → 管を入れる前に抗生物質の点滴します。	[治療方針] 安静で様子を見ます 一時的に針を刺して空気を抜きます 管を入れて持続的に空気を抜きます		空気の漏れがなくなったら、管を閉じて様子を見ます。 翌日のレントゲン写真で空気の漏れがなければ、管を抜いて退院です。 一週間後、抜糸のため受診します。				空気の漏れが一週間以上続くようなら手術を検討します。 		
検査	・胸部レントゲン写・心電図 (場合により胸部CTを行います。) ・採血	 (2日目～退院まで) ・胸部レントゲン写真 (場合によって胸部CTを行います。) (検査のある時は前日までにお知らせします。)								
処置	・痛みがあるときは、痛み止めを使用します。 ・管の挿入部の消毒は、一週間に一回行います。汚れていたり、テープがはがれている時はその都度交換します。									
食事	制限はありません。 ・食欲のない時は、持ち込みのものなど食べられるものをもってかまいません。 ・食事はいつでも変更できますので、希望があれば看護師にお知らせください。									
安静度	トイレ・洗面は可能ですが、できるだけベッド上で安静にしてください。									
入浴	管が入ってる間は、入浴できませんので体を拭きます。 体温37.0℃以下であれば、シャンプー・下半身シャワーは可能ですのでお手伝いが必要であれば声を掛けてください。									
説明	・病棟内を案内します。 ・主治医より病状・治療方針について患者様、ご家族に説明があります。 ・体に入った管の取り扱いについて説明をします。 ・入院前の生活や病状についてお伺いします。					《退院の目安、退院後の生活について》 ・胸部レントゲン写真で肺が十分に広がり、管を抜いても肺が縮まなければ退院可能です。 ・退院が決まったら、次回外来の予約票をお渡しします。 ・次回外来日に傷の抜糸を行うまでは、傷にカットバンを貼ったまま入浴し、入浴後、新しいカットバン貼りかえてください。 ・医師から特別な指示がなければ、入院前の生活を送ることができます。 ・退院後、再び症状がある時、傷口に異常がみられる時は、早めに内科外来を受診してください。				
										

以上につき、主治医から充分説明を受け、同意いたします。

患者氏名 _____
 家族等氏名 _____ (患者との続柄: _____)